

世界文化都市・東京の実現に向けた 文化事業(案)について

平成19年8月30日

文化事業検討部会

1. 文化事業の基本的な考え方

目指すべき10年後の東京の姿：

東京ならではの文化の創造・発信が活発に行われ、世界における文化面でのプレゼンスを確立している
東京から発信する文化を通じ、アジア等の様々な都市との交流が深まっている

1. 文化資源のネットワーク化

オリンピック招致を機に既存の文化事業のあり方を見直し、創造・発信力の強化を通じて東京の国際的な地位を高めていくべきである。また、既存のフェスティバル等と連携し、東京の都市的魅力をより一層向上させるとともに、東京都民の参加を促進していく。
なお、平成20年度については、スケジュールがすでに決まっている文化施設も多いことから、現在各施設で進められている企画を連携・拡充させる方法を積極的に採ることが望ましい。

2. 重点的に取り組むべき2つの柱

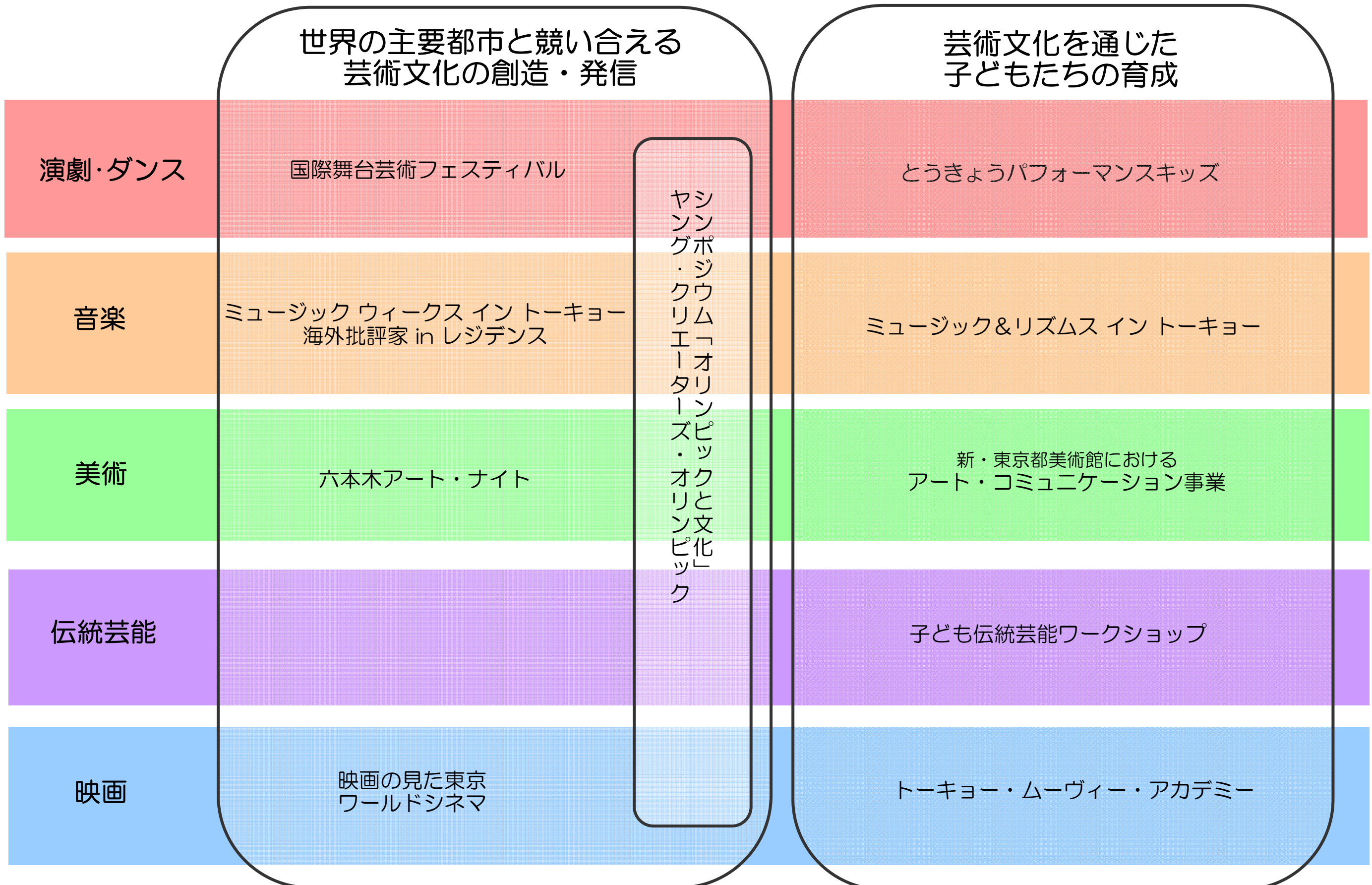
2 a. 世界と文化を結ぶ：世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造・発信

東京には豊かな伝統文化があり、国際的なイベントも多数行われているが、文化の「消費」を中心とした「マーケット」としての側面が目立ち、世界的な「創造・発信」の拠点としては十分に機能していない。このため、ニューヨーク、パリ、ロンドン、ベルリン、香港、上海等の世界主要都市と競い合える国際的な文化プロジェクトを実施し、東京の文化面でのプレゼンスを確立する。東京で行われる国際的な文化事業の成功がクリエイターのキャリアアップにつながるしくみづくり等を行い、東京の文化を「消費」から「創造・発信」へダイナミックに転換する。
また、共同制作プロジェクト、レジデンス、シンポジウムやワークショップなどにより、国際的な交流やコラボレーションの場を作り、文化の多様性に対する理解や人材育成を図っていく。

2 b. 子どもたちと文化を結ぶ：芸術文化を通じた子どもたちの育成

芸術文化を通じた子どもたちの教育が必要となる中、文化事業として子ども向けプログラムを充実させていくべきである。現代芸術や本物の伝統芸能等に触れるほか、様々な分野のアーティストなど専門家とともに制作する機会を提供する必要がある。また、海外において東京文化の紹介や交流を経験することで、創造力を駆使しながら新しいことに挑戦する国際的な人材育成につながっていく。子どもたちが芸術文化を実体験できる機会を増やし、長期的な観点から文化の創造・発信や国際交流を担う次世代の人材育成を図っていく。

2. 文化事業の構成



3. 提案事業の概要

演劇分野

新しい国際舞台芸術フェスティバル

池袋を一帯とする地域を世界的な演劇の震源地と位置づけ、劇場内のみならず、パブリックスペースや歴史的建造物などを活用し、市外劇・野外劇など非日常的な仕掛けを展開。海外の舞台芸術祭や劇場とのパートナーシップによる若手への実践の場も提供していく。

市外劇・野外劇や海外舞台芸術祭との連携



とうきょうパフォーマンスキッズ

プロのアーティスト（振付家・演出家）を小・中学校へ派遣し、オリジナル舞台作品を創作。発表会やワークショップ参加校のコンクールを実施する。

美術分野

六本木アート・ナイト

六本木の地域性を活かし、森美術館、サントリー美術館、国立新美術館、21-21デザインサイト、サントリーホール等が同時に夜間開館し、共同広報などを実施する。



結ぶ・アートイベント

オリンピック誘致イベントとして都立文化施設と共同構築する。

東京都現代美術館 江戸東京博物館 東京都庭園美術館



東京都写真美術館 東京都美術館

アートフェスティバルIN上野公園

芸術とゆかりの深い上野公園で、都民参加型イベントとして、プロアマ問わず手作りのアート作品の展示販売を行うフェスティバル。



東京ミュージアム無料開放ウィーク

都内の美術館・博物館を一斉に無料開放するウィークを設定する。各施設の入場料を補填するため、企業協賛を募り実施する。

同時開催

音楽分野

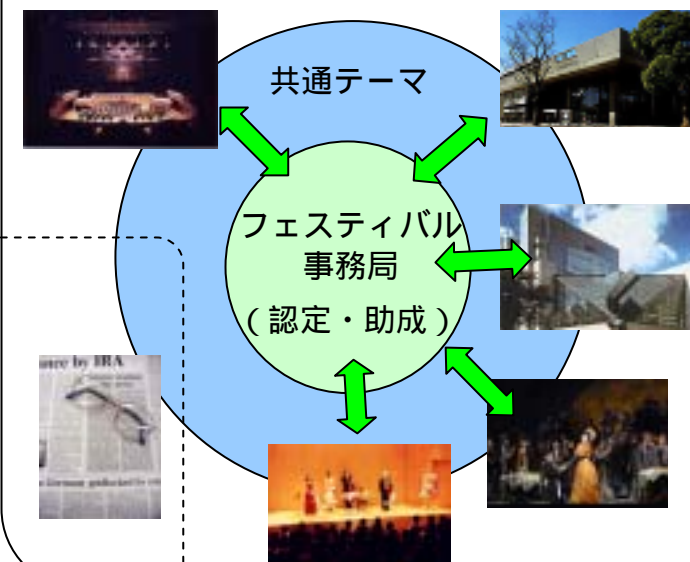
ミュージック ウィークス イン トーキョー

オーケストラ、コンサートホール、音楽事務所等が主催する各種公演の認定・助成等を行ない、フェスティバルとして開催する。中心となるディレクターが共通テーマの設定を行ない、スケールメリットを活かした大規模音楽祭として、世界に発信する。

海外批評家 in レジデンス

世界のクラシック音楽シーンに影響力を持つ国際的な批評家を招聘し、日本の多彩な音楽プログラムを海外へレポートする。ワークショップ、講演等も実施し、アーティストのキャリアアップ支援を行う。

共通テーマによる大規模な音楽祭



伝統芸能分野

子ども伝統芸能ワークショップ

子どもたちが伝統芸能に対する興味・関心を深めるため、芸術家から継続的な指導を受けられる機会を提供し、将来の文化を担う人材の育成にも寄与する。



映画分野

東京国際映画祭と連携

映画の見た東京

「東京」をテーマにした国内外の映画作品を上映。シンポジウムやワークショップも開催する。

トキョー・ムヴィー・アカデミー

国内外の若者たちに、映像制作にかかる教育を行うプログラムを実施。2016年の東京オリンピックでは、ユースディレクターに任命し、オリンピック映像を世界に発信する。

ワールドシネマ

映画のオリンピックとして、一般映画館で上映されない海外の映画上映を行う。



4 . 文化事業の展開 平成20年度（2008年度）から平成22年度（2010年度）

	平成20年度(2008年度)												平成21年度(2009年度)												平成22年度(2010年度)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
オリンピック招致関連日程			立候補都市決定		北京オリンピック						立候補ファイル提出								開催都市決定																				
演劇・ダンス	国際舞台芸術フェスティバル																																						
	とうきょうパフォーマンスキッズ	20年度内で開催											21年度内で開催											22年度内で開催															
音楽	ミュージック ウィークス イン トーキョー																																						
	海外批評家 inレジデンス																																						
美術	六本木アートナイト																																						
	アートコミュニケーション事業(都美)	24年度から実施																																					
伝統芸能	子ども伝統芸能ワークショップ																																						
映画	映画の見た東京																																						
	ワールドシネマ																																						
	トーキョームービーアカデミー																																						
分野横断	シンポジウム「オリンピックと文化」																																						
	ヤング・クリエイターズ・オリンピック	年度内2ヶ月間											年度内2ヶ月間											年度内2ヶ月間															

既存のフェスティバル等と連携し、東京の都市的魅力をより一層向上させるとともに、東京都民の参加を促進

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
既存のフェスティバルなど (年間スケジュール)	東京のオハラ	森	ショート・ショート・フィルム・アジア	東京の夏音楽祭	丸の内・KIDSフェスタ	東京JAZZ	東京国際映画祭	東京文化財ウィーク			都民芸術フェスティバル	
連携事業の選出、連携のあり方等については今後検討	アートフェア東京	目白ロック音楽祭	目白パロック音楽祭	阿波踊り大会(高円寺、三鷹、梶谷、下北沢)	浅草サンバカーニバル	日本ファッションウィーク	アジア舞台芸術祭 ハブ上野	銀座・ジャズ	光都東京ライヒア(丸の内)		東京芸術見本市	国際アニメフェア
	ラ・フォル・ジュルネ	アヅナ銀座・丸の内	東京みなとまつり	花火大会(隅田川等)			森の薪能	銀座商店街お茶会			日本ファッションウィーク	
						大江戸舞祭	コンテンツフェスティバル	東京デザイナーズウィーク	DREAM夜さらい祭り			

5. その他の提案事業

1. 招致気運盛り上げのための事業

開催都市決定(平成21年10月)までの期間、オリンピック招致気運を盛り上げるために実施する。文化施設との連携も行う。

分野	事業名	提案者	実施期間
美術	結ぶ・アート・イベント	文化事業部会	21年度～
	アーティスティック・オリンピア	現代美術館	21年度～
	蔡国強回顧展	現代美術館	20年度
	特別国際展(3企画)	写真美術館	20年度～
	フェルメールとデルフト派展	東京都美術館	20年度
	あ・ら・かるちゃー2008～2010	写真美術館	20年度～
	アートフェスティバル IN 上野公園	事務局	20年度～
音楽	2016東京オリンピックウェルカムコンサート	都響	20年度～
伝統芸能	東京大茶会	事務局	20年度～
分野横断	オリンピック招致・連携企画「日本の中の世界、世界の中の日本」	文化事業部会	20年度～
その他	ヘブンアーティスト海外公演	事務局	20年度～

2. 文化プログラムを視野に入れた事業

オリンピック招致気運の盛り上げとともに、オリンピック開催までの文化プログラムを視野に入れて実施する。

分野	事業名	提案者	実施期間
美術	地球を結ぶプロジェクト	文化事業部会	20～22年度
	オリンピック招致・連携企画「肖像オリンピック展」	文化事業部会	20年度～
	世界の都市美術館展 - 芸術は街を再生する - (4回シリーズ)	東京都美術館	24年度～
音楽	TOKYOミュージックマラソン	文化会館	20年度～

3. 継続していく事業

オリンピック招致気運を盛り上げるとともに、オリンピック終了後も継続していく。

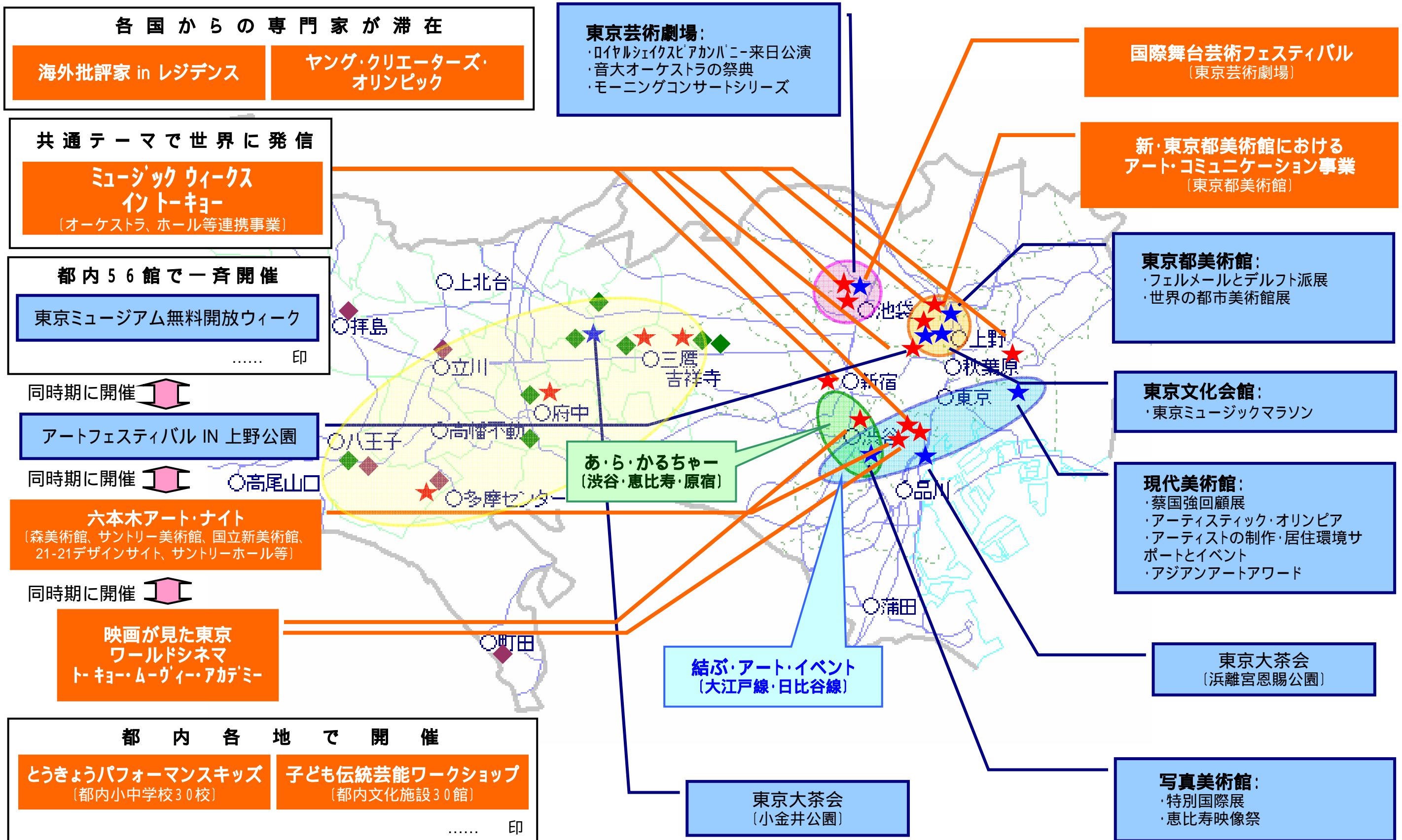
分野	事業名	提案者	実施期間
美術	アーティストの制作・居住環境サポートとイベント	現代美術館	20年度～
	アジアアートアワード	現代美術館	20年度～
	恵比寿映像祭	写真美術館	20年度～
	東京ミュージアム無料開放ウィーク	事務局	20年度～
音楽	音大オーケストラの祭典	芸術劇場	21年度～
	モーニングコンサートシリーズ	芸術劇場	20年度～
演劇	ロイヤルシェイクスピアカンパニー来日公演	芸術劇場	20、22年度～

4. その他の事業

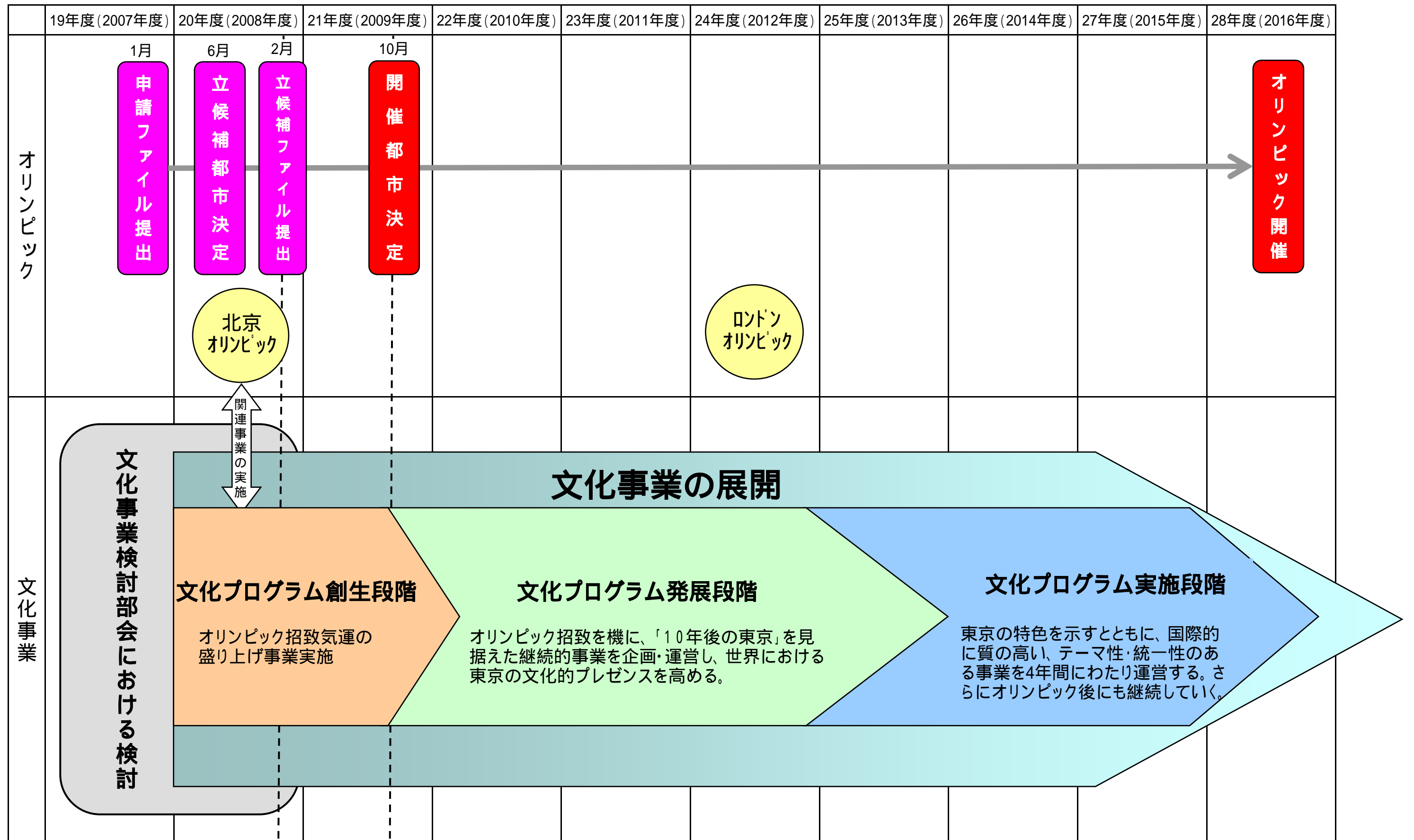
芸術文化以外の分野となるため、民間など他の主体による実施を検討する。

分野	事業名	提案者	実施期間
生活文化	東京「夢の食空間」大フェスタ	文化事業部会	20～22年度
多分野	アルス・オリジナル・フェスティバル	文化事業部会	27～28年度
その他	光のアートの祭典・東京ファンタジア	事務局	20～21年度
	TOKYO WORLD お祭りFESTA	事務局	20年度～

6 . 文化事業の分布イメージ



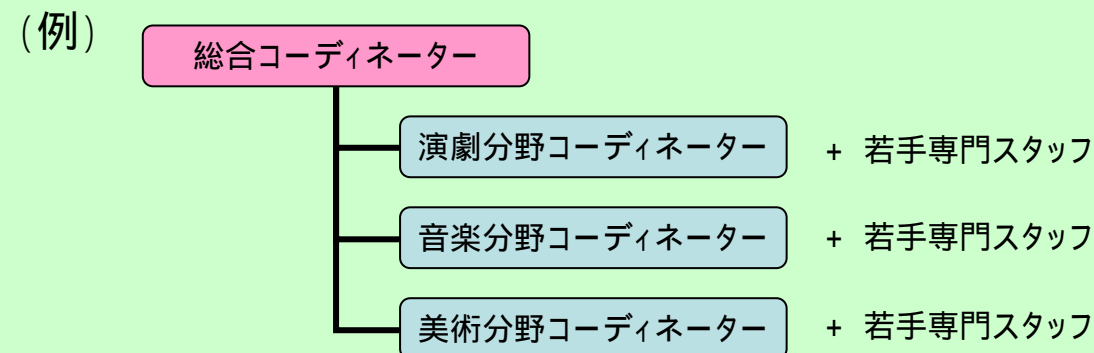
7. 文化事業のロードマップ 2016年まで



8 . 文化事業運営に当たっての課題

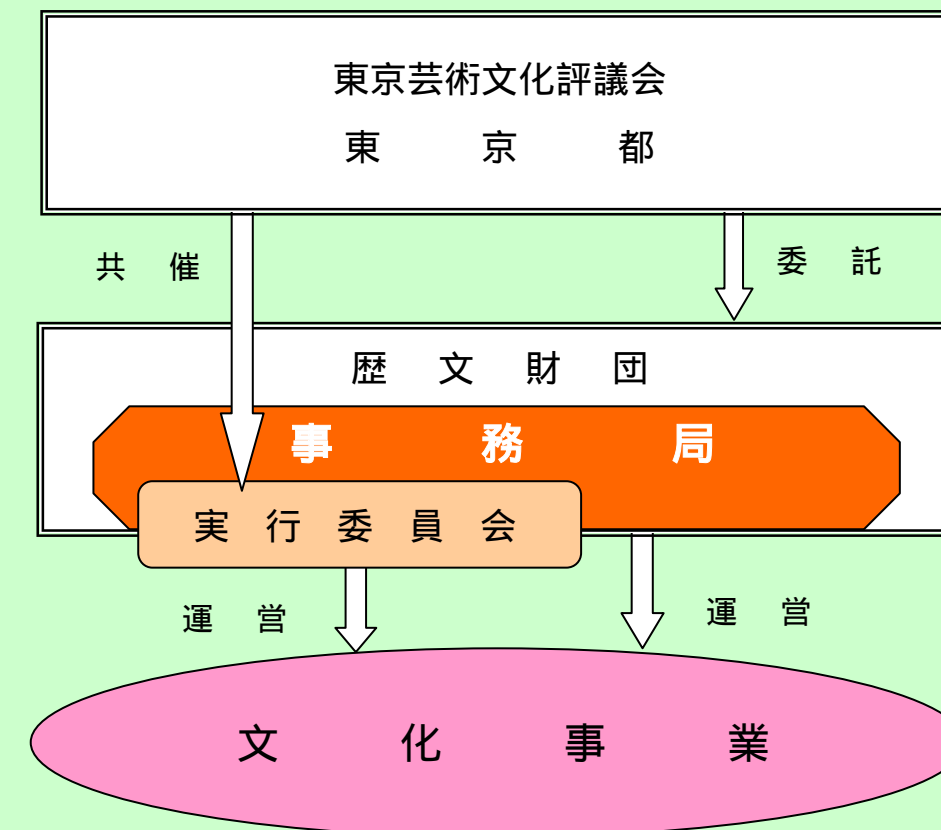
1 - a . 専門家の雇用

各事業を運営するため、事務局にアートマネジメントを専門とする30代の若手を中心としたスタッフのほか、演劇、音楽、美術などの各分野あるいは事業ごとに1人ずつコーディネーターを雇用することが必要となる(専門委員の兼務、非常勤でも可)。さらに、分野を横断して全体を指揮することのできる総合コーディネーターを置くことも検討すべきである。



恒常的な事務局の設置

継続して文化事業を展開していくためには、恒常的な事務局を設置し、専属的に業務に当たることのできるスタッフの配属が必要である。世界的なフェスティバルでは、拠点となる事務局や専用の展示会場を持つ例が見られる。現時点では東京都歴史文化財団に事務局を置き、各事業を運営していくことが望ましい。



1 - b . 将来の運営組織のあり方

各事業の運営組織が一過性の組織の場合には対外交渉などに支障をきたすことがあるため、継続的事業運営のためには適切ではない。従来の実行委員会組織による運営方法を見直し、ディレクターシップのある人物のもと、運営組織を整備し、評議会の提案を実現していくべきである。

2 . 継続的な資金の確保

国際的な評価を得られる規模の文化事業を継続して行うためには、東京都からの安定した支援が求められる。各事業は10年後を見据えて長期的なビジョンのもと、行われるべきであり、その上で、将来大きく減少することのない継続的な助成の存在は不可欠となる。

文化制度検討部会答申(案) 「東京都美術館が取り組むべき新規事業の内容とその規模」 ～「人間にとっての表現の意味」を追求する新・東京都美術館を目指して～

政策目標

- ★「10年後の東京～東京が変わる～」(H18.12)
 - ・都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立
 - ・東京の「顔」となる文化拠点から世界に向けて新たな文化を発信
- ★「東京都文化振興指針」(H18.5)
 - ・「創造的な文化を生み出す都市・東京」を目指して

従来の事業展開

大正15年に東京府美術館として開館
 昭和50年に新館(現在の東京都美術館)開館
 平成7年の現代美術館開館を機に収蔵品を移管。公募展・共催展、講堂・アトリエの貸出し事業を引き続き実施

都立文化施設のあり方検討会報告(H19.3)

新しい東京都美術館の事業展開の方向

- 公募展の継続
- 共催展の拡充
- 新規事業の導入

現在の事業展開に係る課題及び将来動向

公募展

大正15年以来日本の美術界をリードし、美術愛好家の増大、美術界の裾野拡大に寄与
 大規模団体を含む30余団体が国立新美術館に移行し、来場者数減少や観覧者層縮小の懸念あり
 従来の公募展の枠組みで拾いきれない新しい表現への欲求が生まれてきている

共催展

集客力のある大型展開催、作品の質の高さに定評
 国内外の優れた芸術文化作品を鑑賞する機会を提供することは重要

講堂・アトリエの貸出し事業

貸出し事業に特化されているアトリエの見直しも含め、講堂・アトリエのあり方を再検討すべき

立地特性を活かす

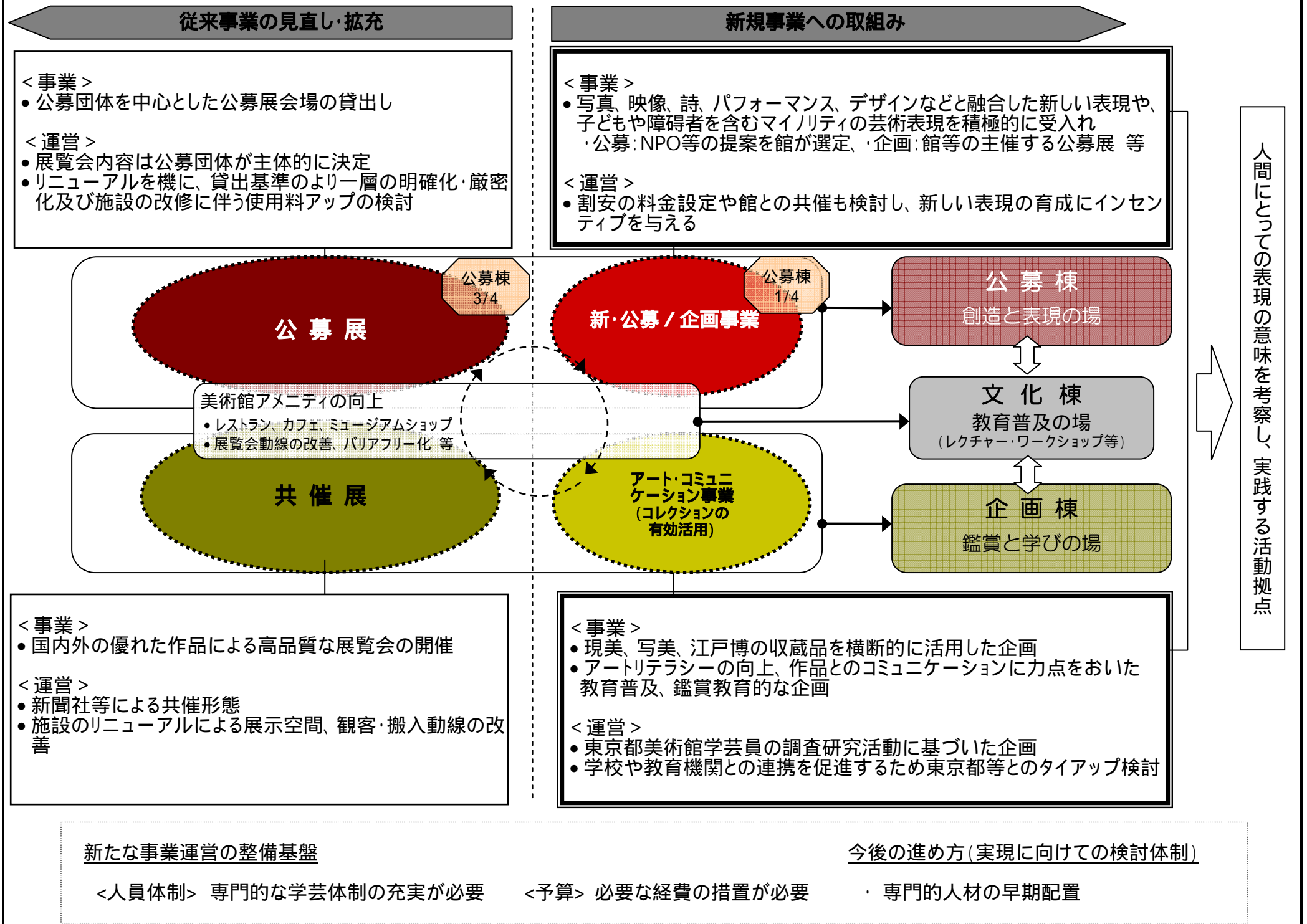
上野の森は国内随一の文化施設や多くの歴史遺産のある日本の芸術文化にとって特別な場所。公園全体が大きな集客力をもつ
 見直しに当っては立地のポテンシャルを活かすべき

新・東京都美術館の全体像

『人間にとっての表現の意味を考察し、実践する活動拠点』～基本的使命～

- 美術へのアクセシビリティや美術のコミュニケーション力、多様な芸術の創造活動を重視し、主体的な美術の活動拠点を目指す。
- 新しい芸術表現や表現者の発掘と育成
 - アート・リテラシーの涵養
 - 創造と表現活動に対する支援
 - 多様な芸術作品や表現の鑑賞機会の提供

新・東京都美術館の事業内容とその規模(従来事業の見直し・拡充と新規事業への取組み)



芸術文化活動支援における「芸術文化発信事業助成」の見直しの方向性(案)

